県南教育事務所
教育情報

南風

令和４年１１月３０日（水）
No、９【 通巻 第192号 】
文責：教務課指導班

令和4年度授業力ブラッシュアップ研修会（小学校・図画工作）

授業力ブラッシュアップ研修会は、学習指導要領の趣旨や内容等に基づいた指導改善を図るため、モデル授業の提案を中心とした授業改善研修会を通して、教員の一層の授業改善・充実の促進に資することを目的に行われています。今号は小学校図画工作科の研修内容について紹介します。

＜テーマ＞
「造形的な見方・考え方を働かせ、主体的に造形活動に取り組む児童の育成」
～自らのイメージをふくらませ、具現化する活動を目指して～

一関市立藤沢小学校を会場に、菊池佳奈先生の6年生の授業を参観したうえでの研究会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により、会場を一関地区合同庁舎に変更し、模擬授業、研究会等を行いました。

【プロジェクトチーム】
一関市立舞川小学校　西城　朋子　教諭
一関市立黄海小学校　萩庄　千雅　教諭
一関市立藤沢小学校　菊池　佳奈　教諭

最初に、プロジェクトチームで図画工作科の学習に関わる児童の課題について話し合いました。「高学年になっても絵の具の基礎技能が身に付いていない児童が多い」という実態から、主に水彩絵の具を使用した題材を取り上げました。

1　提案題材

題材名：この筆あと、どんな空？～自分の空をかこう～
教科書：日本文教出版　５・６下　p.18-19

【改善点1】
表現及び鑑賞に関する資質･能力を相互に関連させた学習

＜１時間目＞作品を目で見る鑑賞
・４枚の絵を鑑賞し、比較しながらよさや美しさを味わい、友達と見方や感じ方を交流。

＜２時間目＞作品をじっくり見ながら描く鑑賞
・水彩絵の具などで、様々な表現方法を真似したり試したりして、表現の多様さを味わう。

【成果】一つの題材で表現と鑑賞が往還するような学習過程を設定したことで、見方や感じ方が深まり、自分のイメージを広げることにつながった。

【改善点2】
基礎･基本を身に付けさせるための、学年段階に応じた学習
・絵のイメージだけでなく、表現方法に着目した鑑賞活動の展開。
・絵の具の使い方の基礎・基本が身に付くように、学年段階を見通して、多様な経験を積み重ねる。

【成果】多様な表現方法を真似しながら体験させたことで、前学年までの経験や技法を確かめるとともに、新たな表現方法に気付き、表現の幅が広がった。

2　助言･講義

講師：県南教育事務所　主任指導主事　雪ノ浦達雄

⑴今回の授業づくりから学びたい点
・感じたことを言葉で表現し、友達と共有したことで、自分なりの見方や感じ方を広げていた。
・鑑賞した後に、表現方法を真似したり、試したりする活動を取り入れたことで、技法や表現の特徴などに気付き、見方や考え方を深められていた。
・表現と鑑賞を相互に関連させた学習過程が、自分の表現の幅を広げることに有効に作用していた。

⑵講義
・「造形的な見方・考え方」とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。
・表現と鑑賞は本来一体であり、相互に関連して働き合うことで児童の資質・能力を育成することができる。
・図画工作科は「上手に絵をかく、上手に作る」ための教科ではない。表現及び鑑賞の活動を通して、子どもを育てる教科である。
・図画工作科は、今は存在しない自分の答えを生み出して、それを表現できる教科である。子どもたちはそれぞれに多様な答えを生み出す。教師がこの多様性を理解していれば、子どもたちは安心して自分の表現ができる。

【模擬授業】
・４つの絵の模写に挑戦。色使い、筆使いなどに着目して様々な表現方法を体験しました。

参加者の声（一部抜粋）

・授業についての説明と模擬授業を通して、表現と鑑賞の活動が行ったり来たりする活動の具体例を示していただき、大変勉強になりました。「絵画を真似して描く」という課題提示から、絵を見て、画材を考え、様々試すという活動に発展し、見方・考え方を大いに働かせた授業だったと思います。
・自分の指導を振り返り、「絵をかく方法」を教えるような指導になっていたと反省しました。子どもたちが大好きな教科なので、楽しみながら自分の思いを表現できるよう、授業の進め方、声のかけ方を見直していきたいと思いました。